Smart City Takeshiba(竹芝Marine-Gateway Minato協議会)

3D都市モデルと先端テクノロジーを活用した市民参加型まちづくりの実現

<u>バーチャル竹芝(3D都市モデル)</u>を使用し、<u>シミュレーション機能</u>の追加やエリア内から収集されるエリア独自のデータを取り込み、<u>まちづくりシミュレーションツール</u>として活用し、まちの更新等の<u>多様な地域関係者の迅速かつ正確な合意形</u>成を目指す。

■ 対象区域の概要

名称: 竹芝地区, 面積: 約28ha 昼間人口: 18,481人(平成27年国勢調査) ※地区内では、令和2年に東京ポートシティ竹芝やウォーターズ竹 芝等の大規模再開発があり、昼間 人口は調査時より増加

■対象区域のビジョン

・日本におけるSociety5.0の早期 実現に向けて、地域に密着したリアルタイムデータ・AI等を活用した 複数分野のサービス展開のモデルを竹芝で構築し、周辺エリア連携・展開を目指す

■本事業全体の概要

市民参加型のまちづくりを実施する竹芝Marine-Gateway Minato協議会のスマートシティ検討WGでは、最先端のテクノロジーを街全体で活用するスマートシティのモデルケースの構築に取り組んでいる。地区内で収集した人流データや訪問者の属性データ、道路状況、交通状況、水位等のデータをリアルタイムで様々な事業者が活用できる都市OSや、先端技術を活用したサービス等を竹芝地区に実装し、竹芝および周辺地区の課題を解決することを目指す。

Smart City Takeshiba



スマートシティプラットフォーム(都市OS)



















*1: (出所) 東京大学大学院新領域創成科学研究科 教授 出口氏 資料より

Smart City Takeshiba(竹芝Marine-Gateway Minato協議会)

■ スマートシティの目標(KPIの設定)

以下KPIを達成し、バーチャル竹芝をまちづくりシミュレーションツールとして実装する。

くシステム整備>

- ・バーチャル竹芝上で更新する(連携する)施設数:10~20施設
- ・エリア内データの取得を目的としたをカメラ設置:5箇所

<ソフトの取り組み>

- ・防災情報認知度向上(地域関係者へのアンケート実施):80%
- ・バーチャル竹芝の避難シミュレーションの活用実例(訓練):年2件

■ 運営体制

竹芝Marine-Gateway Minato協議会 会長:港区芝地区総合支所

事務局:(一社)竹芝エリアマネジメント

オブザーバー: 小林重敬(横浜国立大学名誉教授)、東京都都市整備局アドバイザー: 伊藤香織(東京理科大学教授)、林厚見(㈱SPEAC共同代表)、岩本史に(㈱水辺総研代表取締役)、泉山塁威(日本大学助教)、金子裕(㈱Life Design Application代表取締役)

公共空間活用 検討WG 竹芝地区PR 検討WG

島しょ振興 検討WG

文化芸術 検討WG スマートシティ 検討WG

<スマートシティ検討WGメンバー>

港区、東急不動産㈱、鹿島建設㈱、ソフトバンク㈱、(一社)CiP協議会、東京ガス㈱、(一社)竹芝エリアマネジメント

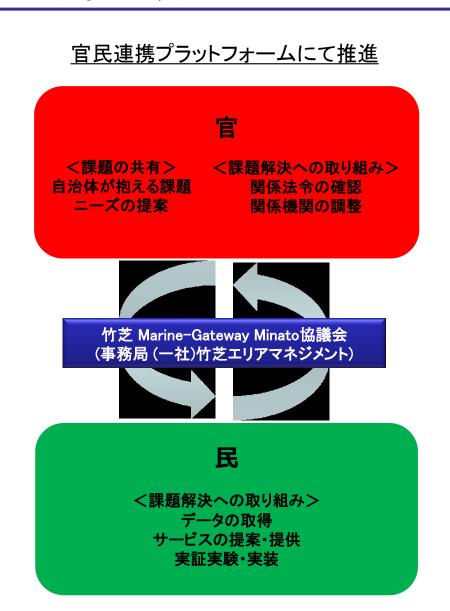
■ 導入技術



- ・「PLATEAU」のオープンデータ(3D都市モデル)を活用して再現した3D都市モデル「バーチャル竹芝」(竹芝を中心に100kmの範囲を3次元可視化)において、地域を含めた帰宅時における数千人規模の混雑人流シミュレーションを実施できるシステム環境を構築。
- ·各施設の流出人数のパラメータを変更し、複数のパターンでシミュレーションすることが可能。また、階段や歩道橋など3次元の人の上下 移動も含めた混雑人流シミュレーションが可能。

Smart City Takeshiba(竹芝Marine-Gateway Minato協議会)

■ビジネスモデル



■スケジュール

